

## 令和5年8月21日 定例記者会見

### 【質疑応答要旨】

- < 記者 > 0歳児から2歳児までの保育料の無償化の影響により、8月時点において利用者が定員に達しているところがあるが、前年度との比較はどうか伺いたい。現状の保育士の配置目標と実際の配置数はどのくらいか。また、今後の保育需要の増加見込みの試算はどうか。
- < 市 > 令和5年8月の入園利用調整後の状況として、保育園に入所できていない児童は171名である。一方、令和4年8月の同様の児童数は56名であることから、昨年度と比較して今年度は約120名増加している。また、令和5年4月時点では、82名であったので今年度だけで比較しても増加している。
- 4月の職員配置の中で保育士の配置基準を満たすように正規保育士、会計年度任用職員の保育士を配置している。今後も、バランスを見ながら、適切に配置する。
- 保育需要は、自然増だけではなく転入等による社会増の要因にもよって、各年齢の児童が増えてくるという見立てである。
- < 記者 > 小規模保育事業所が増加した場合、何名程の児童を受け入れることができるのか。
- < 市 > 0歳児から2歳児は、1施設当たり19名であるので、2施設増加した場合は、38名分の受け皿が確保できることとなる。
- < 市長 > 保育の受け皿の確保は急務であると思っている。先ほど、4月時点において保育園に入れていない児童数が82名とあったが、こちらは待機児童にカウントはされないため、本市において4月時点の待機児童は0である。待機児童が0であるが、実際に入りたいところに希望して入れないということは、全国的にも乖離があるというのが現実である。本市の0歳児から2歳児までの保育料無償化の需要は相当伸びると見込んでいるため、市全体としての保育園の新增設、建て替え等も含めて、力を入れなければならないということで、改めて計画を練り直している状況である。